

R6 ・各校における中央プランの重点取組事項を決定。**NEW**
関小：学習の仕方(自己決定的な学び) 栄小：学習の振り返り
中央中：見通し・学習の仕方・振り返りをバランスよく取り入れる

中央中学校区 小中一貫教育の目指すゴールプラン

家族を 郷土を 愛し 志を立て 凜として 生きてゆく
吉川市教育大綱

具現化

自分を大切にし
郷土を愛し 自らなりたい
自分になるために 他者と協働し
あきらめずに希求し 学び続ける人

P B L ・ 探 究 的 な 学 び

☆教科等

＜国語＞『なます』を3校統一して使用
＜算数・数学＞振り返りを毎時間・単元ごとに行う。
＜外国語＞目的や場面を設定して、必要感をもたせる。
＜社会＞当事者意識をもつことができるような発問の工夫。
＜理科＞課題の文言、発問の工夫。日常生活から材料を集める。
＜図工・美術＞鑑賞カードの活用。
＜体育＞ICTの活用、児童生徒自身が振り返りを考えられるようにする。
＜音楽＞オクリンクや振り返りカード、演奏の様子を録画。
＜技術・家庭＞毎時間の小さな振り返りから次の課題を設定に。

R6

・講師を招聘し、総合的な学習の時間に関する講演会を実施。
・全教科における中央プランの実践。
・授業中での交流活動の重視。

R7 **NEW**

・学力の向上を意識した効果的な振り返りの研究
・自己肯定感や自己効力感を高めるための学級経営及び学習指導の研究と実践

自己肯定感・自己効力感を持ち続ける児童生徒

学習したことを生かし、学力を伸ばす児童生徒

郷土・人・あいさつを大切にする児童生徒

小中間の相互理解⇒共通目標の達成！
PBLの実践 **NEW**

R7 **NEW**

・昨年度のアンケート結果をもとにした各校における中央プランの重点取組事項を決定。
・学力向上を意識した中央中学校区共通の取組を実施
・講師による、PBLや総合に関する研修

全学調・県学調の結果分析及び授業改善の検討

小中相互授業参観の実施
R5 関小公開授業 R6 関小・栄小公開授業
R7 **NEW** 小中相互公開授業

☆教科外等

＜道徳＞自分事として振り返る時間を確実に設ける。
＜特別支援教育＞学習活動の可視化（教室掲示・ICTの活用）。

中央プラン③
「学習の振り返り」
（認知的方略）

R6 ・各校における中央プランの重点取組事項を決定。
関小：学習の仕方(自己決定的な学び) 栄小：学習の振り返り
中央中：3つの中央プランをバランスよく取り入れる

☆教科外等＜総合的な学習の時間＞テーマ・発表の自己決定
＜特別支援教育＞学習活動の可視化（教室掲示・ICTの活用）。
＜ICT＞中央中の「自分大切に主義」ルールを周知しつつ、子どもたちの意見を中心にルールを作っていく。

R6

・小中間代表委員会の交流（オンライン：全3回） ・小中交流（6年生の中学校訪問・中学校教員による体験授業）
・中学校生活のパンフレット作成
・中央中特別支援学級授業体験会、3校特支交流会

R7 **NEW**

・小中間代表委員会の交流 ・小中児童生徒間交流（6年生の中学校訪問・中学校教員による体験授業・小中交流活動）
・中央中特別支援学級授業体験会、3校特支交流会
・地域人材の積極的な活用(総合的な学習の時間 等)

ハイパーQ.Uの結果分析及び学級経営改善の検討

☆教科外等＜特別活動＞委員会活動の交流、小中間アンケート
＜総合的な学習の時間＞相手意識をもった学習の展開、グループでの交流
＜道徳＞児童生徒が交流し深める。彩の国の道徳の充実。
＜ICT＞クラスルームの活用
＜小中連携＞中学生も小学生に見せ、活動に充実性を持たせる。
・あいさつ運動 ・学校や部活動の見学 ・陸上練習参加 ・音楽や作品の交流

☆教科等＜国語＞対話から単元計画をたてる。

＜算数・数学＞基本的な授業の流れをそえる（問題・課題・自分の考え・まとめ・振り返り）。
＜外国語＞小中によるオンライン英会話の実践。
＜社会＞考えをグループで伝え合う。
＜理科＞班で協力して実験・観察・考察できるような役割の工夫。
＜体育＞選択肢を与えるなどの手立てをし、トライアンドエラーの繰り返しをする。
＜図工・美術＞友達の作品から自分の制作に生かしたいポイントを書かせる。
＜音楽＞発表会、授業の見通しをもたせる。
＜技術・家庭＞作品の見本を提示。

個別最適な学び（学習の個性化、指導の個別化）

自分を育てる

県学調質問紙を分析から、中央中学校区では、「自己肯定感」が小6から中1となった際に顕著に下がる点が、「自己効力感」では、全体として県数値に届かないのみならず、成長に応じて、緩やかに低下傾向となっていることが課題である。

学び続ける

県学調の分析から、中央中学校区では、「各教科」および「学力の伸び」とともに課題がある。また、「授業内容を使いこなす」点では、まったくあてはまらなと答える児童生徒も多く、授業改善は課題である。

9才のかべ

自己肯定感の高揚

学力向上

非認知能力の向上

協働的な学び

県学調質問紙の分析から、中央中学校区では、「自然と共に生きる」視点として、「郷土」に関する関心が低い状況である。また、「他者と共に生きる」視点では、「あいさつ」「返事」の数値が低い傾向である。中学校区での連携した対応が必要である。

他者・自然と共に生きる

卒業

充実発展期

習熟・つなぎめ期

基礎基本習得・定着期

入学

第3ステージ（中3、中2）

第2ステージ（中1、小5）

第1ステージ（小4、小1）

中1ギャップ